

経済教育ネットワーク

経済教育の研究や実践を行う経済学者および教師などで組織された「経済教育ネットワーク」(篠原総一理事長)が17日、東京都内で2006年度年次大会を開催した。大会では、経済教育教材を活用した模擬授業やパネルディスカッションが行われ、教材や授業の在り方について、真剣な議論が交わされた。

東京・目黒区立目黒中央中学校の三枝利



パネルディスカッションでは経済教育の進め方について、経済学者と教師が真剣に議論を交わした

択肢の中から必ず唯一の正解がある」と思い込んでいる生徒たちに、「正解はない」問題を考える機会を提供したという。また、経済と政治の学習は独立して結び付かないことが多いが、このような授業を通じて、それを結び付ける学びができる。

多教諭の模擬授業では、参加者も生徒役となり授業を体験した。教師が司会役となり、4〜6人で構成されたグループがそれぞれ牛丼屋を開店し、経営を進めていくという教材を使用。和

3人の発表を受け、大阪大学社会経済研究所・大竹文雄教授は、「ゲームや体験を通じての経済教育は取り組みやすいし、子どもたちを引き付けられるが、面白

気あいあ
いとしな
がらも、
真剣な話
し合いが
行われるという。

ただで終わってはいけない。ゲームの成績が良いこと、学びの

教材、授業の進め方を

真剣に議論

教師が、身近なテーマやゲーム体験、実際の会社を調べた活動などを用いた実践について紹介した。

成果は必ずしも一致しないこともある。経済を正しく、深く理解するために、もう1歩進める工夫をしてほしい」とコメントした。

授業を終え会場からは、各グループが経営の展開中にカードを引くことで起こる「好景気」などの出来事は全グループで共有すべきではないか

経済教育ネットワークの活動は、ホームページでも見ることができ、

「異なる所得の人にどう税金を徴収すれば公平か」を考えさせ、受験勉強などで「選

<http://www.econ-edu.net/>